

各種がん検診について

※厚生労働省の指針で勧めるがん検診と方法です。

	大腸がん検診	胃がん検診	肺がん検診
特徴	・死亡原因の上位 ・かかる人が増加している	・死亡原因の上位 ・50歳代以降にかかる人が多い	・死亡原因の上位
受診間隔	1年に1回	2年に1回	1年に1回
検査内容	【便潜血検査(2日法)】 2日分の便を採取し、便中に含まれる血液を調べる方法です。	【エックス線検査】 発泡剤(胃をふくらませる薬)とバリウム(造影剤)を飲み、胃の粘膜を観察します。 【内視鏡検査】(個別のみ) 口または鼻から胃の中に内視鏡を入れて、胃の内部を観察します。	【胸部X線検査】 胸のX線撮影検査です。 【喀痰細胞診】 3日間起床時に痰をとり、専用の容器に入れて提出します。
注意事項	生理中の方は検査できません。 検診前1週間以内にバリウム検査を受けた方は受診できません。	胃透視検査は、撮影台にあがることが困難な方や自力で立位を保持できない方は受診できません。	検診前1週間以内にバリウム検査を受けた方は受診できません。 「令和7年度 小林市肺がん・結核レントゲン検診受診票」(緑色)をご参照ください。
精密検査	全大腸内視鏡検査、大腸のX線検査	胃内視鏡検査、生検	胸部CT検査、気管支鏡検査

下記の症状がある場合は、検診を待たずに医療機関を受診してください。

血便、腹痛、 便の性状や回数の変化など	胃の痛み、不快感、食欲不振、 食事がつかえるなど	血痰、長引く咳、胸痛、声のかすれ、 息切れなど
------------------------	-----------------------------	----------------------------

	乳がん検診	子宮がん検診
特徴	・死亡原因の上位 ・女性のがんの中でかかる人が多い	・女性のがんの中でも比較的多い ・20～40歳代で増加傾向
受診間隔	2年に1回	2年に1回
検査内容	【マンモグラフィ】 乳房を片方ずつプラスチックの板で挟んでレントゲンで撮影し、小さいしこりや石灰化を見つけます。 【乳房エコー】 しこりの有無や形・大きさを調べます。	子宮頸部(子宮の入り口)をブラシで擦って細胞を採り、細胞を調べる検査です。
注意事項	妊娠中の方や妊娠の可能性のある方、また授乳中の方、ペースメーカーを装着されている方等は受診できません。	生理中で出血量の多い方は、正確な判定ができない場合があるため、受診できません。
精密検査	マンモグラフィ、超音波検査、細胞診・組織診	コルポスコープ検査、HPV検査

下記の症状がある場合は、検診を待たずに医療機関を受診してください。

しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、 乳頭の湿疹やただれなど	月経(生理)以外に出血があるなどの不正出血、 月経が不規則など
---	------------------------------------

※問診や当日の体調により、検診をお断りする場合があります。

検診結果で「要精密検査」や「治療が必要」と言われた場合は、必ず精密検査や治療を受けてください。

- ①がんがなくてもがん検診の結果が「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。
- ②検診結果で「異常なし」でも、症状がある場合は、医療機関を受診してください。
- ③検診は継続的に受診することが大切です。
- ④がん検診の精密検査結果は、関係医療機関と小林市で共有されます。



国保一般・脳ドック案内について

小林市国保に加入している35～74歳で、令和7年度特定健診及び令和6年度国保一般・脳ドックを受けていない方を対象に申込み受付します。詳しくは、「国民健康保険特定健康診査受診券」(黄色)の裏面に記載しておりますので、ご参照ください。

【お問い合わせ】 小林市健康推進課 (小林市保健センター) TEL : 0984-23-0323